

子どもの言葉の遅れ

「言葉の遅れ」「だわりが強い」

「落ち着きがない」など、

発達がちょっと気になる子どもの相談が絶えません。

発達障害と診断されるのではないかと、

不安な気持ちで過ごす家族の方に、

知つておいてもらいたい点を解説します。

手帖
健康
し
ばら
き
第4回



勝盛 宏
河北総合病院 副院長
小児科部長
かつもりひろし
日本小児科学会小児科専門医／日本小児神経学会小児神経専門医／小児慢性特定疾患指定医／身体障害者福祉法指定医（肢体不自由）

早期診断より早期理解

私は、病院や発達センターで発達に関する保護者の医療相談を行っていますが、昨今、子どもが発達障害かそうでないかと白黒つけたがる傾向が高まっています。その結果、グレーディングの子どもたちの受診増加による「発達障害バブル」状態になつ

ております。われわれ専門家は非常に憂うべき傾向ととらえています。

われわれの考え方の基本は「早期診断ではありません。大切なのは「診断ではなくとも早期理解と支援」と考えます。特に子どもがまだ言葉を話せない場合、親であれば子どもに一生懸命言葉を教えたくなるのは当然ですが、子どもにとって最も重要な

活動、について具体的に何をすべきか知つておく必要があります。**2** がそれに該当します。
3 言葉の遅れを示す発達特性のある子ども、特に自閉スペクトラム症特性のある子どもはどうしても一人遊びに偏りがちで、二人関係（安心できる大人との1対1の関係）を築くこ

とが苦手なため、関係（社会性）の発達が遅れがちなのです。

もしも1歳6ヶ月健診の段階で、興味・関心を他者と共有する「共同注意」と「共感」の指さしが見られ

言葉の遅れを示す 子どもへの向き合い方

発達障害の早期対応の原則を（表）に示します。特に家庭内では、**1 健康な生活の維持**、すなわち早寝・起き・朝ご飯などの基本的生活スタイルの確立や、**2 養育者との信頼と愛着形成**、**3 遊びを通じた自己表現活動**、について具体的に何をすべきか知つておく必要があります。**2** がそれについて、親子間の関わり遊び（図）がそれに該当します。

発達障害の早期対応の原則					
1 健康な生活の維持	2 養育者との信頼と愛着形成	3 遊びを通じた自己表現活動	4 基本的な身辺自立の習得	5 コミュニケーション能力の習得	6 集団行動における基本的なルールの習得

けんこうメモ! 柔軟性トレーニング

コロナ禍でマスクが生活の一部となり、マスクをしていると苦しいと感じていらっしゃるかと思います。ストレッチをすることで筋肉が柔らかくなり、

Lesson.1

両ひざを立て、鼻から息を吸います。



息を吐きながら両ひざを右に倒し、吐き終わるまでに元の位置にひざを立て戻します。左も同様に行います。



Lesson.2

息を吸って

息を吐いて



鼻から息を吸い、両手を伸ばし吐きながら体を右にひねります。吐き終わるまでに元の位置に戻します。左も同様に行います。

Lesson.3

息を吸って

息を吐いて



鼻から息を吸い、両手をお腹にあて吐きながら体を右に倒します。吐き終わるまでに元の位置に戻します。左も同様に行います。

図 親子間の関わり遊びの例



この大事なのは、大人側が子どもの興味・関心や、求め・要求を素早くキャッチして応答的に関わることです。情動を楽しく共有可能のうなり取りとして、身体を使つた関わり遊びを交流のチャネルとします。特に発達初期は、直接触れ合う身体遊びで感覚・情動・関心の共有を引き出し、「大人と一緒に遊ぶのは楽しいな、心地いいな」と子どもが感じられるような取り組みを行いましょう。これは、どの家庭でも容

易にでき、子どもの精神・情緒の発達に加え、言葉の発達を促す方法といえます。

このように、日々子どもと相互に関わり合うことを通して、社会的コミュニケーション能力が伸びる、すなわち発達特性の偏りが薄らいでいくと理解してもらいたいと思います。

最後に、子どもとメディア視聴に関するですが、1歳時点でメディア暴露量の増加と親子の相互遊びの減少があると、2歳時点での自閉スペクトラム症候群のリスクが増加する」と報告されました (JAMA Pediatr. 2020)。すなわち長時間メディア視聴をして親子の相互遊びが少ないと、発達障害でなくとも発達障害の可能性を疑われてしまうのです。

親子の相互遊びと同様にメディア視聴制限は、子どもの社会的コミュニケーション能力を伸ばす上で、とても大事なことなのです。